資治通鑑 第 084 巻

令和 4 年 2 月 6 日

【晉紀六】　起重光作噩，盡玄黓閹茂，凡二年。

■晉、▲慕容氏、続国訳漢文大成．経子史部 第 5 巻 188p

孝惠皇帝中之上永寧元年（辛酉，３０１年）

■［張軌は自立を目指し涼州刺史］春，正月，散騎常侍の安定の**張軌**を以て涼州刺史と為す。**軌**は時方に多難なるを以て，陰に河西に保據する之志在り，故に涼州と為らんを求める。時に州境は盜賊縱横し，鮮卑は寇を為す。**軌**は至り，**宋配**、**汜瑗**を以て謀主と為し，悉く討ちて之を破り，威は西土に著わる。

■［司馬倫簒奪し即位］相國の**倫**は**孫秀**と牙門の**趙奉**をして詐りて**宣帝**（司馬懿）の神語を傳え使めて云く、「**倫**は宜しく早く西宮（司馬倫は東宮を相国府とし、禁中を西宮とす）に入るべし。」

散騎常侍の義陽王の**威**は，**望**之孫也，素より**倫**に諂い事え，**倫**は**威**を以て侍中を兼ねしめ，**威**をして逼りて**帝**の璽綬を奪い，禪る詔を作ら使めんとし，又た尚書令の**滿奮**をして節を持して、璽綬を奉じて位を**倫**に禪ら使む。左衛將軍の**王輿**、前軍將軍の**司馬雅**等は甲士を帥いて殿に入り，（5-189p）三部の司馬を曉諭し，示すに威賞を以てす，敢えて違う者無し。**張林**等は（宮城の）諸門を屯守す。乙丑（1+60-53+1=9 日），**倫**は法駕を備えて宮に入り，**帝**位に即き，天下に赦し，改元して建始とす。**帝**は華林（華林園）の西門より出でて金墉城に居り，**倫**は**張衡**をして兵を將いて之を守ら使む。

■［司馬倫の体制は玉石混淆］丙寅（2+60-53+1=10 日），**帝**を尊びて**太上皇**と為し，金墉を改めて永昌宮と曰い，皇太孫を廢して濮陽王と為す。世子の**荟**を立てて**皇太子**と為し，子の**馥**を封じて京兆王と為し，**虔**を廣平王と為し，**詡**を霸城王と為し，皆な侍中にして兵に將たり。梁王の**肜**を以て宰衡と為し，**何劭**を太宰と為し，**孫秀**を侍中、中書監、驃騎將軍、儀同三司と為し，義陽王の**威**を中書令と為し，**張林**を衛將軍と為し，其の餘の黨與は，皆な卿、將（列卿及び諸中郎将）と為り，階を超え次を越え，勝げて紀す可からず。下は奴卒に至るまで，亦た爵位を加える。朝會する毎に，貂蟬（侍中・中常侍の冠、貂の尾を以て飾りとなし、蝉を付けて文と為す）は坐に盈ち，時の人は之が諺を為して曰く、

「貂は足らず，狗尾は續く。」（貂蟬の冠を戴く侍中中常侍の輩の朝廷に列なるも不体裁の上、狗の尾同然のやくざ者まで居並ぶの意）

是の歲，天下の舉げる所の賢良、秀才、孝廉は皆な試みず，郡國の計吏及び太學生の年十六以上なる者は皆な吏、守令に署す（司馬倫は役職乱発で歓心を買う）。赦日職に在る者は皆な侯に封じられ、郡の綱紀（功曹の屬）は並びて孝廉と為り，縣の綱紀（主簿・錄事・史の屬）は並びに廉吏と為る。府庫之儲は，以て賜與に供するに足らず。應に侯とする者多く，印を鑄るに給せず，或は白板を以て之を封じる。

■［孫旂は四子の過分な処遇に危機感］初め，平南將軍の**孫旂**之子の**弼**、弟の子の**髦**、**輔**、**琰**は皆な**孫秀**に附會し，之と族を合わせ，旬月の間に位を通顯に致す。**倫**の**帝**を稱するに及び，四子は皆な將軍と為り，郡侯に封じられ，**旂**を以て車騎將軍、開府と為し，**旂**は以えらく**弼**等は**倫**の官爵を受けること差に過ぎ（過分），必ず家の禍いと為さんと，幼子の**回**を遣わして之を責め，**弼**等は從わず。**旂**は制する能わず，慟哭し而して已む。

■［孫秀は三王を懐柔］癸酉（9+60-53+1=17 日），濮陽の哀王の**臧**を殺す。**孫秀**は專ら朝政を執り，**倫**の

出す所の詔令は，**秀**は輒ち改めて更に與奪し，自ら青紙に書きて詔と為し，或は朝に行い夕べに改め，百官の轉易すること流れるが如し。**張林**は素より**秀**と相い能からず，且つ開府を得ざるを怨み，潜かに**太子**の**荇**に箋を與えて，言う、

「**秀**は權を專らにして衆心に合わず，而して功臣は皆な小人にして，朝廷を撓亂す，悉く之を誅す可し。」

荇は書を以て**倫**に白し，**倫**は以て**秀**に示す。**秀**は**倫**に勸め、**林**を收め，之を殺し，其の三族を夷ぐ。**秀**は齊王の**冏**（許昌）、成都王の**穎**（鄴）、河間王の**顒**(關中)が，各々強兵を擁し，方面に據るを以て，之を惡む。乃ち盡く其の親黨を用いて三王の參佐と為し，**冏**に鎮東大將軍，**穎**に征北大將軍を加え，皆な開府儀同三司とし，以て之を寵し安ぜしむ。

【李特は趙廙の内紛につけ込み奪取】

成漢［趙廙は李庠を誅殺］**李庠**は驍勇にして衆心を得（北道を治めるをいう），**趙廙**は浸く之を忌み而して未だ言わず。長史の蜀郡の**杜淑**、**(5-190p) 張粲**は**廙**を說いて曰く、

「將軍は兵を起こすこと始めて爾り，而るに遽(にわか)に**李庠**を遣わして強兵を外に握らしむ，我が族類に非ず，其の心は必らず異なる。此くは戈を倒して人に授くる也，宜しく早く之を圖るべし。」

會々**庠**は**廙**に尊號を稱するを勸め，**淑**，**粲**は因りて**廙**に白し**庠**は大逆不道なりと以て，引いて之を斬り，其の子姪の十餘人を並す。時に**李特**、**李流**は皆な兵を將いて外に在り，**廙**は人を遣わして之を慰撫して曰く、

「**庠**は宜しく言うべき所に非ず，罪は應に死すべし。兄弟は相い及ばず。」

復た**特**、**流**を以て督將と為す。**特**、**流**は**廙**を怨み，兵を引いて綿竹（四川省西川道德陽県、現・德陽市旌陽区）に歸る。

成漢［廙の勢力は内紛で衰える］**廙**の牙門將の涪陵の**許弇**(きょえん)は巴東の監軍に為らんと求め，**杜淑**、**張粲**は固く執りて許さず，**弇**は怒り，手づから**淑**、**粲**を**廙**の閤の閣下に殺し，**淑**、**粲**の左右も復た**弇**を殺す。三人は，皆な**廙**之腹心也，**廙**は是に由りて遂に衰える。

成漢［李特は趙廙を滅ぼす］**廙**は長史の犍為の**費遠**、蜀郡太守の**李苾**、督護の**常俊**を遣わして萬餘人を督して北道を斷ち，綿竹之石亭に屯す。**李特**は密かに兵を收めて七千餘人を得，夜**遠**等の軍を襲い，之を燒き，死者は什に八九なり，遂に成都に進攻す。**費遠**、**李苾**及び軍祭酒の**張微**は，夜關を斬りて走り，文武は盡く散ず。**廙**は獨り妻子と與に小船に乘りて走り，廣都に至り，從者の殺す所と為る。**特**は成都に入り，兵を縱ちて大掠し，遣使して洛陽に詣らしめ，**廙**の罪狀を陳ず。

成漢［羅尚は成都に入り、李特は歓迎のふりす］初め，梁州刺史の**羅尚**は，**趙廙**の反するを聞き，表す、

「**廙**は素より雄才に非ず，蜀人は附かず，敗亡は日を計り而して待つ可し。」

詔して**尚**を平西將軍、益州刺史に拜し，牙門の**王敦**（別の王敦）、蜀郡太守の**徐儉**，廣漢太守の**辛冉**等七千餘人を督して蜀に入らしむ。**特**等は**尚**の來たるを聞き，甚だ懼れ，其の弟の**驤**をして道に奉迎せ使め，並せて珍玩を獻じる。**尚**は悅び，**驤**を以て騎督（騎兵の督）と為す。**特**、**流**も復た牛酒を以て**尚**を綿竹に勞う，**王敦**、**辛冉**は**尚**を說いて曰く、

「**特**等は專ら盜賊を為す，宜しく會に因りて之を斬るべし。然らずんば，必ず後患と為らん。」

尚は從わず。**冉**は**特**と舊有り，**特**に謂って曰く、

「故人は相い逢う，吉ならずば當に凶なり矣。」

特は深く自ら猜懼す。三月，**尚**は成都に至る。汶山の羌は反し，**尚**は**王敦**を遣わして之を討たしめ，羌の

殺す所と為る。

［齊王冏は逆臣孫秀討伐を標榜］

■［齊王冏らの決起］齊王の**冏**は趙王の**倫**を討たんと謀り，未だ發せず，會々離狐（濟陰郡の県、山東省濟寧道菏澤県、現・菏沢市牡丹区）の**王盛**、潁川の**處穆**は衆を濁澤（潁川の長社県に在り、河南省開封道長葛県にあり、現・許昌市長葛市の東）に聚め，百姓は之に従い，日に萬を以て數う。**倫**は其の將の**管襲**を以て齊王の軍司と為し，**盛**、**穆**を討ち，之を斬る。**冏**は因りて襲を收め，之を殺し，豫州刺史の**何劭**、龍驤將軍の**董艾**等と兵を起こし，遣使して成都王の**穎**、河間王の**顒**、常山王の**乂**及び南中郎將の新野公の**歆**（扶風王駿の子）に告げ，檄を征鎮（四征四鎮の方面に居る者）州郡県國に移し，稱す、

「逆臣の**孫秀**は，趙王を迷誤す，當に共に誅討すべし。命に從わざる者有れば，誅は三族に及ばん。」(5-191p)

■［成都王の穎は鄴を発進］使者は鄴に至り，成都王の**穎**は鄴令の**盧志**を召して之を謀る。**志**は曰く、

「趙王は簒逆し，人神は共に憤る，**殿下**は英俊を收めて以て人望に從い，大順に杖りて以て之を討てば，百姓は必ず召さずして自ら至り，臂を攘いて爭い進み，克たざる虞からん矣！」

穎は之に從い，**志**を以て諮議參軍（晉の公府は皆置く、軍事を諮詢謀議する官、諸參軍の上、作戰參謀）と為し，仍って左長史に補す。**志**は，**毓**（盧毓は 73 卷魏明帝景初元年にあり）之孫也。**穎**は兗州刺史の**王彥**、冀州刺史の**李毅**、督護の**趙驤**、**石超**等を以て前鋒と為し，遠近は響應す。朝歌（汲郡の県、河南省河北道淇県、現・鶴壁市淇県）に至る，衆は二十餘萬なり。**超**は，**苞**（石苞は文帝武帝に事える）之孫也。常山王の**乂**は其の國に在り，太原內史の**劉暾**と各々衆を帥いて**穎**の後繼と為す。

■［新野公の歆は親疎に従わず］新野公の**歆**は**冏**の檄を得，未だ從う所を知らず。嬖人の**王綏**は曰く、

「趙は親（歆の父の扶風王駿は趙王倫と皆宣帝の子なり、歆は倫に於いて叔姪と為す。其の屬は親し。冏は歆に於いて從子。その屬は倫に比べれば疏なり）に而して強く，齊は疏に而して弱し，公は宜しく趙に從うべし。」

參軍の**孫洵**は大言して衆に曰く、

「趙王は凶逆なり，天下は當に共に之を誅すべし，何ぞ親疏の強弱之れ有るや！」

歆は乃ち**冏**に從う。

■［河間王の顒は二王盛んで鞍替え］前の安西參軍の**夏侯奭**は始平に在り，衆數千人を合わせて以て**冏**に應じ，遣使して河間王の**顒**を邀えしむ。**顒**は長史の隴西の**李含**の謀を用いて，振武將軍の河間の**張方**を遣わして討ちて**奭**及び其の黨を擒とし，之を腰斬す。**冏**の檄は至り，**顒**は**冏**の使いを執りて**倫**に送り，**張方**を遣わして兵を將いて**倫**を助けしむ。**方**は華陰に至り，**顒**は二王（齊王冏、成都王穎）の兵盛んなるを聞き，復た**方**を召して還り，更に二王に附く。

■［揚州刺史の郗隆は降らず、討伐さる］**冏**の檄は揚州（呉平定後揚州は秣陵にあり）に至り，州人は皆な**冏**に應じんと欲す。刺史の**郗隆**は，**慮**（漢獻帝の時に御史大夫）之玄孫也，兄の子の**鑒**及び諸子を以て悉く洛陽に在るを以て，疑いて未だ決せず，悉く僚吏を召して之を謀る。主簿の淮南の**趙誘**、前の秀才の**虞潭**は皆な曰く、

「趙王は簒逆し，海內は疾む所なり。今義兵は四もに起き，其の敗れるは必ず矣。明使君の計を為すに，自ら精兵を將いて，逕ちに許昌（齊王冏は時に許昌に鎮す）に赴くに若くは莫く，上策也。將を遣わして兵を將いて之に會せしむるは，中策也。量りて小軍を遣わして，形に隨いて勝ちを助けしむるは，下策也。」

隆は退き，密に別駕の**顧彥**と之を謀る，**彥**は曰く、

「**誘**等の下策は，乃ち上計也。」
治中の**留寶**、主簿の**張褒**、西曹の**留承**は之を聞き，見えんことを請いて，曰く、
「明使君の今當に何を施すべきかを審かにせず？」
隆は曰く
「我倶に二**帝**の恩を受ける，偏助する所無し，州を守らんことを欲する而して己む。」
承は曰く、
「天下は，**世祖**（文帝）之天下也。**太上**（恵帝）は代を承けて已に久しく，**今上**（趙王倫）は之を取り，平かならず，齊王は時に順いて事を舉げる，成敗（趙王倫は必ず敗れる）は見る可し。使君は早く兵を發して之に應じず，狐疑遷延すれば，變難は將に生ぜんとす，此の州は豈に保つ可けん也！」
隆は應じず。**潭**は，**翻**（呉主孫権に事える直を以て聞ゆ）之孫也。**(5-192p) 隆**は檄を停めること六日（曹に）下さず，將士は憤怒す。參軍の**王邃**は石頭に鎮し，將士は爭いて往きて之に歸し，**隆**は從事を牛渚に遣わして之を禁じ，止むる能わず。（牛渚に於いて石頭に行くを禁じるは、揚州が還りて淮南に治するやも）將士は遂に**邃**を奉じて**隆**を攻め，**隆**の父子及び**顧彦**は皆な死し，首を**冏**に傳える。

■安南將軍、監沔北諸軍事の**孟觀**は，以為らく、
「紫宮（星座の名）の**帝**坐は他の變無し，**倫**は必ず敗れず，乃ち之が為に固守する。
■<u>［三王迫り、倫の迎撃態勢と神頼み］</u>**倫**、**秀**は三王（齊王冏、成都王穎、河間王顒）の兵の起きるを聞き，大いに懼れ，詐りて**冏**の表を為りて曰く、
「何の賊なるやも知らず猝に攻圍せ見る，臣は懦弱にして自ら固める能わず，乞う中軍（禁兵、魏晋にて）は救わ見よ，庶わくは死を歸するを得ん。」
其の表を以て內外に宣示す。上軍將軍の**孫輔**、折衝將軍の**李嚴**を遣わして兵七千を帥いて廷壽關（河南省河洛道偃師県、現・洛陽市偃師区）より出で，征虜將軍の**張泓**、左軍將軍の**蔡璜**、前軍將軍の**閻和**をして兵九千を帥いて崤阪關（河南省河洛道登封県、現・鄭州市登封市）より出で，鎮軍將軍の**司馬雅**、揚威將軍の**莫原**をして兵八千を帥いて成皐關（河南省開封道汜水県、現・鄭州市滎陽市汜水鎮西北）より出で，以て**冏**を拒ましむ。**孫秀**の子の**會**を遣わして將軍の**士猗**、**許超**を督して宿衛兵三萬を帥いて以て**穎**を拒ましむ。東平王の**楙**を召して衛將軍と為し，諸軍を都督せしめ，又た京兆王の**馥**、廣平王の**虔**を遣わして兵八千を帥いて三軍（孫會・士猗・許超）の繼援と為さしむ。**倫**、**秀**は日夜禱祈、厭勝し以て福を求め，巫覡をして戰日を選ば使め，又た人をして嵩山に於いて羽衣を著，詐りて仙人**王喬**と稱し，書を作りて**倫**の祚の長久なるを述べ使め，以て衆を惑わさんと欲す。
■（三月）閏月（元嘉暦四月、朔一致），丙戌（1 日）朔，日之を食する有り。正月より是の月に至るまで，五星（水金火木土）は互いに天を經（わた）り（昼間に星見える），縦横常無し。（天文学的にはあり得ない）

■<u>［張泓は齊王冏に善戦］</u>**張泓**等は進みて陽翟（河南郡に属す、河南省開封道禹県治、現・許昌市禹州市）に據り，齊王の**冏**と戰い，屢々之を破る。**冏**は穎陰（穎川郡に在り陽翟より 40 里、河南省開封道許昌県治、許昌市建安区）に軍す，夏，四月（元嘉暦五月），**泓**は勝ちに乘りて之に逼り，**冏**は兵を遣わして逆えて戰う。諸軍は動かず，而るに**孫輔**、**徐建**の軍は夜亂れ，逕ちに洛に歸り自首して曰く、
「齊王の兵は盛んなり，當たる可からず，**泓**等は已に沒せり矣！」
趙王の**倫**は大いに恐れ，之を秘し，而して其の子の**虔**及び**許超**を召して還る（河北の軍を召し還し自ら衛らんと

す)。會々**泓**が**冏**を破るの露布（戦勝報告）が至り，**倫**は乃ち復た之を遣る。**泓**等は悉く諸軍を帥いて潁を濟り**冏**の營を攻め，**冏**は出兵して其の別將の**孫髦**、**司馬謨**等を擊ち，之を破り，**泓**等は乃ち退く。**孫秀**は詐りて、

「已に**冏**の營を破り、**冏**を擒得す」

と稱し、百官をして皆な賀せ令む。

■［成都王穎は河を渡る］成都王の**穎**の前鋒は黃橋（朝歌の西に黃澤あり、澤水右して蕩水に入る。これを黃雀溝といい、その上の橋）に至り，**孫會**、**士猗**、**許超**の敗る所と為る，殺傷は萬餘人，士衆は震駭す。**穎**は退きて朝歌を保たんと欲し，**盧志**、**王彥**は曰く、

「今我が軍は利を失い，敵は新たに志を得，我を輕じる之心有り。我が若し退縮すれば，(5-193p) 士氣は沮衄し，復た用いる可からず。且つ戰いは何ぞ能く勝負無からん！若かず更に精兵を選び，星行（星降る夜も行く）倍道し，敵の不意に出でるべし，此れ兵を用いる之奇也。」

穎は之に從う。**倫**は黃橋之功を賞し，**士猗**、**許超**は**孫會**と皆な節を持ち，是に由りて各々相い從わず，軍政は一ならず，且つ勝ちを恃みて**穎**を輕んじ而して備えを設けず。**穎**は諸軍を帥いて之を擊ち，大いに溱水（河南省河北道濟源県にあり、東流して黃河に入る、濟源市）に於いて戰い，**會**等は大いに敗れ，軍を棄てて南に走る。**穎**は勝ちに乘りて長驅して河を濟る。

【三王勝ちて帝復帰】

■［孫秀斬られ倫退き、帝は復位］**冏**等の兵を起こすより，百官將士は皆な**倫**、**秀**を誅さんと欲し，**秀**は懼れ，敢えて中書省に出でず。河北の軍の敗れるを聞くに及び，憂懣して為す所を知らず。**孫會**、**許超**、**士猗**等は至り，**秀**と謀る。或は餘卒を收めて出でて戰わんと欲す。或は宮室を焚き，己に附かざる者を誅し，**倫**を挾みて南に**孫旂**、**孟觀**に就かんと欲す。或は船に乘りて東に走りて海に入らんと欲し，計りて未だ決せず。辛酉（57-51+1=7 日），左衛將軍の**王輿**は尚書の陵公の**濯**と輿に營兵七百餘人を帥いて，南掖門より宮に入り，三部司馬は應を內に為し，**孫秀**、**許超**、**士猗**を中書省に攻め，皆な之を斬り，遂に**孫奇**、**孫弼**及び前將軍の**謝惔**等を殺し，**濯**は，**伷**之子也。**王輿**は雲龍門に屯し，八坐を召し皆な殿中に入り，**倫**をして詔を為ら使めて曰く、

「吾は**孫秀**の誤まる所と為り，以て三王を怒らす，今已に**秀**を誅す。其の**太上皇**を迎えて位に復し，吾は農畝に歸老せん。」

傳詔（詔書の伝令役）は騶虞幡を以て將士に敕して兵を解く。黃門は**倫**を將いて華林より東門より出で，及び太子の**荇**も皆な汝陽裡（倫の洛陽城內の私邸）の第に還る，甲士數千を遣わして**帝**を金墉城に迎える。百姓は咸な萬歲を稱す。**帝**は端門より入り，殿に升り，群臣は頓首して謝罪す。詔して**倫**、**荇**を送りて金墉城に付（赴）かしむ。廣平王の**虔**は河北より還り，九曲（河南省河洛道鞏県、現・鄭州市鞏義市）に至り，變を聞き，軍を棄て，數十人を將いて裡第に歸る。

■［趙王倫の誅殺］癸亥（59-51+1=9 日），天下に赦し，改元（永寧）し，大いに酺すること五日，使者を分遣して三王を慰勞せしむ。梁王の**肜**等は表す、

「趙王**倫**の父子は凶逆なり，宜しく伏して誅すべし。」

丁卯（3+60-51+1=13 日），尚書の**袁敞**を遣わして節を持して**倫**に死を賜い，其の子の**荇**、**馥**、**虔**、**詡**を收め皆な之を誅す。凡そ百官の**倫**に用いる所と為る者は皆な斥免され，台（尚書・御史・謁者の三台）、省（門下・中書・秘書の三省）、府（諸公府）、衛（二衛六軍），僅かに存する者有り，是の日，成都王の**穎**は至る。己巳（5+60-

51+1=15 日），河間王の**顒**は至る。**穎**は**趙驤**、**石超**をして齊王の**冏**を助けて**張泓**等を陽翟に討た使め，**泓**等は皆な降る。兵興こりてより六十餘日，戰鬥に死する者は十萬人に近し。**張衡**、**閻和**、**孫髦**を東市に斬り，**蔡璜**は自殺す。五月（元嘉暦六月），議陽王の**威**を誅す。襄陽太守の**宗岱**は**冏**の檄を承けて**孫旂**を斬る，永饒冶（南陽の宛県に在るべし）の令の**空桐機**は**孟觀**を斬り，皆な首を洛陽に傳え，三族を夷ぐ。襄陽王の**尚**を立てて皇太孫と為す。**(5-194p)**

■六月（元嘉暦七月），乙卯（51-50+1=2 日），齊王の**冏**は衆を帥いて洛陽に入り，軍を通章署に頓し，甲士は數十萬，威は京都（晉は景帝の諱を避けて京師を京都という）に震う。

■戊辰（4+60-50+1=15 日），天下に赦す。

■復た賓徒王の**晏**（貶せらること前巻永巷元年にあり）を封じて吳王と為す。

■［三王の支配体制は先行き不透明］甲戌（10+60-50+1=21 日），詔して齊王の**冏**を以て大司馬と為し，九錫を加え，備物典策は，**宣**、**景**、**文**、**武**の魏を輔すの故事の如し。成都王の**穎**は大將軍，都督中外諸軍事と為り，黃鉞を假し，尚書事を錄し，九錫を加え，入朝して趨らず，劍履して殿に上る。河間王の**顒**を侍中、太尉と為し，三賜之禮（弓矢・鉞鉄・圭瓚）を加える。常山王の**乂**を撫軍大將軍と為し，左軍を領せしむ。廣陵公の**濛**の爵を進めて王と為し，尚書を領し，侍中を加える。新野公の**歆**（南中郎將より鎮南を加える）の爵を進めて王，都督荊州諸軍事と為し，鎮南大將軍を加える。齊、成都、河間の三府は，各々掾屬四十人を置き，武號森列し，文官は員に備わり而して已む，識者は兵之未だ戢(おさ)まらざるを知る也。己卯（15+60-50+1=26 日），梁王の肜(ゆう)を以て太宰と為し，司徒を領せしむ。

■［劉琨は特に許されて尚書左丞］光祿大夫の**劉蕃**の女は趙の世子の**荅**の妻と為り，故に**蕃**及び二子の散騎侍郎の**輿**、冠軍將軍の**琨**は皆な趙王の**倫**の委任する所と為る。大司馬の**冏**は**琨**の父子の才望有るを以て，特に之を宥し，**輿**を以て中書郎（中書侍郎）と為し，**琨**を尚書左丞と為す。又た前の司徒の**王戎**を以て尚書令と為し，**劉暾**を御史中丞と為し，**王衍**を河南尹と為す。

【成都王穎は鄴に籠もる】

■［成都王穎の帰還］新野王の**歆**は將に鎮（荊州）に之かんとし，**冏**と同じく乘りて陵に謁し，因りて**冏**を說いて曰く、

「成都王は至親（帝の弟）にして，同じく大勳を建てる，今宜しく之を留めて輿に輔政すべし。若し爾る能わざれば，當に其の兵權を奪うべし。」

常山王の**乂**は成都王の**穎**と俱に陵を拜し，**乂**は**穎**に謂って曰く、

「天下者，**先帝**之業なり，王は宜しく之を維正すべし。」

其の言を聞く者は憂懼（冏と乂と穎が互いに対立するを恐れる）せざる莫し。**盧志**は**穎**に謂って曰く、

「齊王の衆は百萬と號し，**張泓**等と相い持ちて決する能わず。**大王**は逕ちに前みて河を濟り，功は與に貳（並ぶ）無し。然るに今齊王は**大王**と共に朝政を輔けんと欲す。**志**は聞く兩雄は俱に立たず，宜しく**太妃**（穎の母の程才人を冊して成都の太妃）の微疾に因り，還りて定省（典禮に、人の子たる者は冬は温にして夏は清くしくし、昏に定めて晨に省みる、孝養を尽くす）するを求め，重きを齊王に委ね（朝政の重きを齊王に委ねるときは、四海の人は穎は功大なれども居らずと謂い、將に心を穎に帰せんとする也），以て四海之心を収めよ，此れ計之上也。」

穎は之に從う。**帝**は**穎**を東堂に見え，之を慰勞す。**穎**は拜謝して曰く、

「此れ大司馬の**冏**之勳にして，臣は焉に豫かる無し。」

因りて**冏**の功德を表稱し，

「宜しく委ねるに萬機を以てすべし」
と，自ら母の疾を陳じ，籓に歸るを請う。即ち辭して出で，復た營に還らず，便ち太廟に謁し，東陽城門（洛陽城の東面北頭の第二門）より出で，遂に鄴に歸る。信を遣わして**冏**と別れ，**(5-195p) 冏**は大いに驚き，馳せて出て**穎**を送り，七里澗（河南省河洛道洛陽県内、現・洛陽市洛竜区）に至り，之に及ぶ。**穎**は車を**㑹**(とど)めて別れを言い，流涕滂沱し，惟だ**太妃**の疾苦を以て憂と為し，時事に及ばず。是に由りて士民之譽は皆な**穎**に歸す。

■［司馬冏政権の五公］**冏**は新興の**劉殷**を辟して軍諮祭酒（晉の制で文武官公及び諸方面征鎮府に置く）と為し，洛陽令の**曹攄**を記室督（晉の制で諸公府に置く、上章表奏報書記を担当）と為し，尚書郎の**江統**、陽平太守の河内の**荀晞**を參軍事（晉の諸公、諸從公の持節都督は參軍を增して六員と為す）とし，吳國の**張翰**を東曹掾（晉の制、東曹の上に在り、戸曹は倉曹の下に在り、廷尉の屬官に正監平あり）と為し，**孫惠**を戸曹掾と為し，前の廷尉正の**顧榮**及び順陽（魏は南陽を分けて南鄉郡を立つ。武帝太康中に名を順陽郡に改める）の**王豹**を主簿と為す。**惠**は，**賁**（孫賁は孫權の從兄）之曾孫。**榮**は，**雍**（顧雍は吳相なり）之孫也。**殷**は幼にして孤貧なり，曾祖母を養い，孝を以て聞こえ，人は穀帛を以て之に遺れば，**殷**は受け而して謝せず，直だ云う、
「後貴からんを待ちて當に相い酬ゆべき耳。」
長ずるに及び，博く經史に通じ，性は倜儻（卓異なり）にして大志有り，儉なり而して陋ならず，清なり而して介ならず，之を望みて頹然（從順なる貌）なり而して侵す可からざる也。**冏**は**何勖**(かきょく)を以て中領軍と為し，**董艾**をして樞機を典らしめ，又た其の將佐の功有る者の**葛旗**（牟平公）、**路秀**（小黄公）、**衛毅**（陰平公）、**劉真**（安鄉公）、**韓泰**（封丘公）を封じて皆な縣公と為し，委ねるに心膂を以てし，號して「五公」と曰う。

■［司馬穎は洛陽に召されず、鄴に留まる］成都王の**穎**は鄴に至り，詔して使者を遣わして就きて前命を申べしむ。**穎**は大將軍を受け，九錫の殊禮を讓る。表して興義の功臣を論ず，皆（盧志・和演・董洪・王彦・趙驤）な公侯に封じる。又た表して稱す、
「大司馬は前に陽翟に在り，賊と相い持つこと既に久しく，百姓は困敝す，乞う河北の邸閣の米十五萬斛を運び，以て陽翟の饑民を振わさん。」
棺八千餘枚を造り，成都國の秩を以て衣服を**為**(つく)り，**黄橋**の戰士を斂祭し，其の家を旌顯すること，常の戰亡に二等を加える。又た溫縣（河内郡に屬す、河南省河北道溫県、現・焦作市溫県）に命じて趙王の**倫**の戰士萬四千餘人を**瘞**(うず)む。皆な**盧志**之謀也。**穎**は形（貌は貌）美に而して神昏く，書を知らず，然るに氣性は敦厚にして，事を**志**に委ね，故に其の美を為すを得たり焉。詔して復た遣使して**穎**に諭して入りて輔けしめ，並びに九錫を受け使めんとす。**穎**の嬖人の**孟玖**は洛に還るを欲せず，又た**程太妃**は鄴都を愛戀す，故に**穎**は終に辭して拜せず。

■［陸機は穎に助けられ心服］初め，大司馬の**冏**は中書郎の**陸機**が趙王の**倫**の為に禪詔を撰せしむを疑い，收めて，之を殺さんと欲する。大將軍の**穎**は之が為に辯理し，死を免かるるを得る，因って表して平原内史と為し，其の弟の**雲**を以て清河内史と為す。**機**の友人の**顧榮**及び廣陵の**戴淵**は，中國の多難なるを以て，**機**に吳に還るを勸める。**機**は**穎**の全濟之恩を受けたるを以て，且つ**穎**に時望有り，與に功を立てる可しと謂い，遂に留まりて去らず。

■秋，七月，復た（武帝太康十年に長沙王、楚王瑋が誅せられて同母により貶せられる）常山王の**乂**を封じて長沙王と為し，開府，驃騎將軍に遷す。**(5-196p)**

■［東萊王蕤の誅殺］東萊王の**蕤**(ずい)は，凶暴にして酒を使い，數々大司馬の**冏**を陵侮し，又た**冏**に從いて開府を求め得ず而して之を怨み，密かに**冏**の專權を表し，左衛將軍の**王輿**と**冏**を廢せんと謀る。事は覺われ，八月，詔して**蕤**を廢して庶人と為し，**輿**の三族を誅し，**蕤**を上庸に徙す。上庸内史の**陳鑑**は**冏**の旨を

承け潜かに之を殺す。
■天下に赦す。
■［東安王綝の復帰］東武公の**澹**は不孝に坐して遼東に徙さる。九月，其の弟の東安王の**綝**（廃徙は82巻元康元年にあり）を征して舊爵を復し，尚書左僕射に拝す。**綝**は東平王の**楙**を擧げて平東將軍、都督徐州諸軍事と為し，下邳に鎮せしむ。

【李特勢力の拡大の流れ】

成漢［蜀の政情不安定］初め，朝廷の符は秦、雍州に下り，流民の蜀に入る者を召し還ら使む，又た御史の**馮該**、**張昌**を遣わして之を督せしむ。**李特**の兄の**輔**は略陽より蜀に至り，
「中國は方に亂れんとす，復た還るに足らず。」
と言い、**特**は之を然りとし，累（しきり）に天水の**閻式**を遣わして**羅尚**に詣りて權（かり）に停めて秋に至らんことを求め，又た賂を**尚**及び**馮該**に納れる。**尚**、**該**は之を許す。朝廷は**趙廞**を討つの功を論じ，**特**を宣威將軍に，弟の**流**を奮武將軍に拝し，皆な侯に封じる。璽書は益州に下り，六郡の流民の**特**と同じく**廞**を討つ者を條列せしめ，將に封賞を加えんとす。廣漢太守の**辛冉**は**廞**を滅ぼすを以て己の功と為さんと欲し，朝命（特と流の任命）を寝ね，實を以て上げず，衆（六郡の衆）は咸な之を怨む。
成漢［羅尚は流民を弾圧］**羅尚**は従事を遣わし流民を督遣し，七月を限りて道に上らしむ。時に流民は布きて梁、益に在り，人の傭力と為り，州郡は逼り遣ると聞き，人人は愁怨し，為す所を知らず。且つ水潦は方に盛んにして，年穀は未だ登らず，以て行資（旅行の費用食料）と為す無し。**特**は復た**閻式**を遣わして**尚**に詣らしめ，停めて冬に至るを求める。**辛冉**及び犍為太守の**苾**は以て不可と為す。**尚**は別駕の蜀郡の**杜苾**（続は杜弢）を秀才に擧げる，**式**は**苾**の為に逼り移すの利害を說き，**苾**も亦た流民を寛くすること一年を欲す。尚は**冉**、**苾**之謀を用い，從わず。**苾**は乃ち秀才の板を致（送り致し）し，出でて家に還る。**冉**は性は貪暴にして，流民の首領を殺し，其の資貨を取らんと欲し，乃ち**苾**と**尚**に白して，言わく、
「流民は前に**趙廞**之亂に因り，剽掠する所多し，宜しく因りて移（書を移す）して關を設けて以て之を奪い取るべし。」（そもそも流民は蜀土に安んじるのに、朝廷の命で還し、また資財を奪取し関を設けるのでは、反って乱になる）
尚は書を梓潼太守の**張演**に移し諸要（往来の津などの要地）に於いて關を施し，寶貨を搜索せ令む。
成漢［李特は辛冉と対立し、流民集る］**特**は數々流民の為に留まらんことを請う，流民は皆な感じ而して之を恃み，多くは相い帥いて**特**に歸す。**特**は乃ち大營を綿竹に結び以て流民を處き，**辛冉**に移し自ら寛くせんことを求める。**冉**は大いに怒り，人を遣わして通衢に分榜（諸処に榜を掲示）し，**特**の兄弟を購募（懸賞金つき捜索）し，許すに重賞を以てす。**特**は之を見，悉く取りて以て歸り，弟の**驤**と其の購を改めて云わく、
「能く六郡之豪（続は酋豪）の**李**、**任**、**閻**、**趙**、**楊**、**上官**及び**氐**、(5-197p) **叟**（蜀叟は自ら一種）の侯王を送れば一首ごとに，百匹を賞せん。」
是に於いて流民は大いに懼れ，**特**に歸する者は愈々衆し，旬月の間に二萬人を過ぎる。**流**も亦た衆數千人を聚める。
成漢［李特は羅尚を信ぜず］**特**は又た**閻式**を遣わして**羅尚**に詣らしめ申ねて期（期限）せんことを求め，**式**は衝要に營柵して，流民を掩わんと謀るを見，歎いて曰く、
「民心は方に危うし，今は而して之を速め，亂は將に作らんとす矣。」
又た**辛冉**、**李苾**の意の回らす可からざるを知り，乃ち**尚**を辭して綿竹に還らんとす。**尚**は**式**に謂って曰

く、
「子は且(しばら)く吾が意を以て諸々の流民に告げよ，今は寛くすることを聴さん矣。」
式は曰く、
「明公は奸説に惑う，恐らくは寛理無し。弱く而も輕んず可からざる者は民也，今之を趣(うなが)すに理を以てせずば，衆は怒りて犯し難し，恐らくは禍いと為りて淺からず。」
尚は曰く、
「然り。吾は子を欺かず，子其れ行け矣！」
式は綿竹に至り，**特**に言って曰く、
「**尚**は爾云うと雖も，然れども未だ信ず可からざる也。何を者？**尚**は威刑立たず，**冉**等は各々強兵を擁し，一旦變と為れば，亦た**尚**の能く制する所に非ず，深く宜しく備えを為すべし。」
特は之に従う。冬，十月，**特**は分けて二營と為し，**特**は北營に居り，**流**は東營に居り，甲を繕い兵を厲ぎ，戒嚴して以て之を待つ。
成漢［李特は辛冉・羅尚の攻撃を撃退］**冉**、**苾**は相い與に謀りて曰く、
「**羅**侯は貪に而して斷無く，日復た一日，流民をして奸計を展べるを得令む。**李特**の兄弟は並びて雄才有り，吾が屬は將に虜する所と為る矣！宜しく計を決すると為すべし，**羅**侯は復た問うに足らざる也！」
乃ち廣漢都尉の**曾元**、牙門の**張顯**、**劉並**等を遣わして潜かに歩騎三萬を帥いて**特**の營を襲わしむ。**羅尚**は之を聞き，亦た督護の**田佐**を遣わして**元**を助けしむ。**元**等は至り，**特**は安臥して動かず，其の衆の半ば入るを待ち，伏を發して之を撃つ，死者は甚だ衆し。**田佐**、**曾元**、**張顯**を殺し，首を傳えて以て**尚**、**冉**に示す。**尚**は將佐に謂って曰く、
「此の虜は去るを成せり矣，而るに廣漢（辛冉は廣漢太守）は吾が言を用いず以て賊勢を張る（軽々しく兵を動かして特に破られる），今之を若何せん！」
成漢［李特は大将軍を任命、羅尚と対立へ］是に於いて六郡の流民の**李含**等は共に**特**を推して鎮北大將軍（の事を）を行わしめ，製を承けて封拝す。其の弟の**流**を以て鎮東大將軍（の事を）を行わしめ，東督護と號し，以て相い鎮統す。又た兄の**輔**を以て驃騎將軍と為し，弟の**驤**を驍騎將軍と為し，兵を進めて**冉**を廣漢（四川省嘉陵道遂寧県東北、現・遂寧市船山区）に攻める。**尚**は**李苾**、**費遠**を遣わして衆を帥いて**冉**を救わしむも，**特**を畏れ，敢えて進まず。**冉**は出でて戦い，屢々敗れ，圍を潰して德陽（廣漢郡の県、四川省嘉陵道遂寧県東南、現・遂寧市船山区）に奔る。**特**は入りて廣漢に據り，**李超**を以て太守と為し，兵を進めて**尚**を成都に攻める。**尚**は書を以て**閻式**を諭し，**式**は復書して曰く、
「**辛冉**は傾巧，**曾元**は小豎，**李叔平**（李苾の字）は將帥之材に非ず。**式**は前に節下（晉では方面専従の将帥をいう）及び**杜景文**（李苾の字）の為に徙すを留める之宜を論ず，人は桑梓（父祖の植えて子孫に渡す者）を懐い，孰か之を願わざるや！（5-198p）但だ往日初めて至るや（最初に蜀に流れてきた経緯），穀に隨いて庸賃し，一室五分す，復た秋潦（秋の大水）に値う，乞う冬熟を須たんと，而るに終に聽せ見れず。之を繩(ただ)すこと太だ過ぎ，窮する鹿も虎に抵(あ)たる。流民は肯えて頸を延べて刀を受けず，以て變を為すに致せり。即ち**式**の言を聽き，寛めるに嚴（旅装）を治め使めば，去る九月を過ぎずして盡く集まり，十月は道に進み，鄉里に達せ令（続は今）め，何ぞ此くの如き有る也！」
成漢［李特と羅尚は対峙］**特**は兄の**輔**、弟の**驤**、子の**始**、**蕩**、**雄**及**李含**、**含**の子の**國**、**離**、**任回**、**李攀**、**攀**の弟の**恭**、**上官晶**、**任臧**、**楊褒**、**上官悖**等を以て將帥と為し，**閻式**、**李遠**等を僚佐と為す。**羅尚**は素より貪殘にして，百姓の患いと為る。**特**は蜀民と法三章を約し，捨（喜捨・恩恵）を施し貸を振わし，賢を禮

し滯を抜けば，軍政は肅然たり，蜀民は大いに悦ぶ。**尚**は頻る**特**の敗る所と為り，乃ち長圍を阻とし，郫水（綿水は西に綿竹県を出て湔水と合す、郫江ともいう）に縁いて營を作り，連延として七百里，**特**と相い拒み，救いを梁州及び南夷校尉（南中の諸郡を統べる）に求める。

■十二月，穎昌の康公の**何劭**は薨ず。
■太司馬の**冏**の子の**冰**を封じて樂安王と為し，**英**を濟陽王と為し，**超**を淮南王と為す。

孝惠皇帝中之上太安元年（壬戌，３０２年）（この年 12 月に冏死して太安に改元、永寧二年なり）

■春，三月，**沖**（諡）の太孫の**尚**は薨ず。
■夏，五月，乙酉（21-15+1=7 日），梁の孝王の**肜**（ゆう）は薨ず。
■右光祿大夫の**劉寔**を以て太傅と為す。尋いで老病を以て罷む。

成漢■［河間王顒の派遣軍を破り李特自立］河間王の**顒**は督護の**衙博**を遣わして**李特**を討たしめ，梓潼（四川省西川道梓潼県、現・綿陽市梓潼県）に軍す。朝廷は復た**張微**を以て廣漢太守と為し，德陽に軍す。**羅尚**は督護の**張龜**を遣わして繁城（四川省西川道新繁県、現・成都市新都区）に軍す。**特**は其の子の鎮軍將軍の**蕩**等をして**博**を襲わ使む。而して自ら將して**龜**を擊ち，之を破る。**蕩**は**博**の兵を陽汚（四川省西川道綿陽県、現・綿陽市涪城区）に敗り，梓潼太守の**張演**は城を委てて走り，巴西丞の**毛植**は郡を以て降る。**蕩**は進みて**博**を葭萌（四川省嘉陵道昭化県の東南、現・広元市元壩区昭化鎮）に攻め，**博**は走り，其の衆は盡く降る。河間王の**顒**は更に**許雄**を以て梁州刺史と為す。**特**は自ら大將軍、益州牧，都督梁、益二州諸軍事と稱す。
■［司馬冏は司馬穎を警戒］大司馬の**冏**は久しく大政を專らにせんと欲し，以えらく**帝**の子孫俱に盡き（太子も孫三人も死す），大將軍の**穎**が次に立つ之勢い有り。清河王の**覃**は，**遐**之子也，方に八歲なり，乃ち上表して之を立つを請う。癸卯（39-15+1=25 日），**覃**を立てて**皇太子**と為し，**冏**を以て**太子**の太師と為し，東海王の**越**を司空と為し，中書監を領せしむ。(5-199p)

成漢［李特は張微を破る］秋，八月，**李特**は**張微**を攻め，**微**は擊ちて之を破り，遂に進みて**特**の營を攻める。**李蕩**は兵を引いて之を救い，山道は險狹にして，**蕩**は力戰し而して前み，遂に**微**の兵を破る。**特**は涪に還らんと欲し，**蕩**及び司馬の**王幸**（晉書載記には王辛）は諫めて曰く、
「**微**の軍は已に敗れ，智勇は俱に竭く，宜しく銳氣に乘りて遂に之を禽とすべし。」
特は復た進みて**微**を攻め，之を殺し，**微**の子の**存**を生禽りにし，**微**の喪を以て之を還す。
成漢［李特は成都に迫る］**特**は其の將の**蹇碩**（けんせき）を以て德陽を守らしむ。**李驤**は毘橋（四川省西川道新都県、現・成都市新都区）に軍し，**羅尚**は軍を遣わして之を擊ち，屢々**驤**の敗る所と為り，**驤**は遂に進みて成都を攻め，其の門を燒く。**李流**は成都之北に軍し，**尚**は精勇萬人を遣わして**驤**を攻め，**驤**は**流**と合い擊ち，大いに之を破り，還る者は什に一二。**許雄**は數々軍を遣わして**特**を攻め，勝たず，**特**の勢いは益々盛んなり。

■［建寧朱提は寧州回復］建寧（古の滇王国で漢の益州郡、劉蜀は建寧郡を置く、雲南省雲南大理の府、現・雲南省南東部）の大姓の**李睿**、**毛詵**は太守の**杜俊**を逐い，朱提（蜀漢の朱提郡、四川省永寧道宜賓県の西南、現・宜賓市叙州区）の大姓の**李猛**は太守の**雍約**を逐い，以て**特**に應じ，衆は各々數萬なり。南夷校尉の**李毅**は討ちて之を破り，**詵**を斬

る。**李猛**は箋を奉じて降り，而して辭意は不遜なり，**毅**は誘いて而して之を殺す。冬，十一月，丙戌（22-12+1=11 日），復た寧州（81 巻武帝太康五年に廃止）を置き，**毅**を以て刺史と為す。

【司馬冏の専権、司馬穎が挙兵して誅殺】

■［司馬冏は大いに府第を起こす］齊の武閔王の**冏**は既に志を得，頗る驕奢にして權を擅にし，大いに府第を起こし，公私の廬舍を壞るは百を以て數え，制は西宮と等しく，中外は失望す。侍中の**嵇紹**は上疏して曰く、

「存して亡を忘れず，《易》之善戒也（易の繫辭傳に言う、君子は安くして危うきを忘れず、存して亡を忘れず、治まりて亂ょ忘れず、然る後に身安くして国家保つ可きなり）。臣は願わくは**陛下**は金墉を忘れる無く，大司馬は穎上を忘れる無く，大將軍は黃橋を忘れる無く，則ち禍亂之萌（きざし）は由りて而して兆（きざ）す無し矣。」

又た**冏**に書を與えて，以為く、

「**唐**、**虞**は茅茨し，夏**禹**は宮を卑くす。今大いに第捨を興し，及び三王の為に宅を立てる，豈に今日之急なる所を邪！」

冏は遜辭して之を謝し，然るに從う能わず。

■［司馬冏の奢侈宴樂への諫言］**冏**は宴樂に耽し，入りて朝見せず。坐して百官を拜し（一説に天子は三公九卿諸將軍を用いるに、猶引き手これを拜す。今冏は府第に安坐して百官を拜受する也と），三台に符敕す。選舉は均しからず，嬖寵は事を用いる。殿中御史（魏の制では御史台は二御史をして殿中に居り、非法を伺察せしむ。晉に及びて四人を置く）の**桓豹**は事を奏し，先ず**冏**の府を經ず，即ち考竟を加える。南陽の處士の**鄭方**は上書して**冏**を諫めて曰く、

「今**大王**は安んじて危うきを慮らず，燕樂は度を過ぎるは，一の失也。宗室骨肉は，當に纖介無し，今則ち然らずは，二の失也。蠻夷（李特等が梁州益州を寇亂するを謂う）は靜かならず，**大王**は功業は已に隆んなりと謂い，以て念と為さずは，三の失也。兵革之後，百姓は窮困し，振救を聞かずは，四の失也。**大王**は義兵と盟約し，事定まる之後は，賞は時を踰えず，而るに今猶ほ功の未だ論ぜざる者有るは，五の失也。」(5-200p)

冏は謝して曰く、

「子に非ずんば，孤は過ちを聞かざりし。」

■［孫惠は功成り退くを勸める］**孫惠**は上書して曰く、

「天下に五難有り、四は可からず，而して明公は皆な之に居る。鋒刃を冒犯するは，一の難き也。英豪を聚め致すは，二の難き也。將士と勞苦を均しくするは，三の難き也。弱を以て強に勝つは，四の難き也。皇業を興復するは，五の難き也。大名は久しく荷なう可からず，大功は久しく任ず可からず，大權は久しく執る可からず，大威は久しく居る可からず。**大王**は其の難に行い而も以て難きと為さず（穎上に在りし時を謂う），其の不可に處り而も之を可と謂う（今の時を謂う），**惠**が竊に安ぜざる所也。明公は宜しく功成りて身退く之道（老子の言、天の道なりと）を思うべし。親しきを崇び近きを推し，重きを長沙、成都の二王に委ね，長揖して籓に歸（続、掃×）るべし，則ち**太伯**，**子臧**（呉の太伯は天下を譲り、曹の子臧は国を譲る）は美を前に專らにせざらん矣。今乃ち高亢（高い極）之危かる可きを忘れ，權勢を貪りて以て疑いを受け，高台之上に遨遊し，重墉之內に逍遙すると雖も，愚は竊に謂うに危亡之憂い，穎（穎川）、翟（陽翟）に在る之時に過ぎる也。」

冏は用いる能わず。**惠**は疾と辭して去る。**冏**は**曹攄**に謂って曰く、

「或は吾に權を委てて國に還るを勸める，何如や？」

攄は曰く、

「物は太だ盛んなるを禁じ，**大王**は誠に能く高きに居り危きを慮り，裳を褰(かか)げて之を去れば，斯れ善之善なる者也。」

冏は聽かず。

■［張翰、顧榮は冏の引退を恐れ逃亡］**張翰**、**顧榮**は皆な禍に及ばんことを慮り，**翰**は秋風起こるに因りて，菰（蔬類の植物で陂澤に生じ、高さ五六尺で葉は蒲葦の如く、春秋雨期に中心に白薹を生ず、藕の如くにして軟し菰菜という）**榮**、蓴羹（蓴菜の羹）、鱸魚(すずき)の鱠(なます)を思い，歎じて曰く、

「人生は志に適するを貴ぶ耳，富貴は何をか為さん！」

即ち引いて去る。**榮**は故（ことさらに、わざと）に酣飲し，府事を省ず，長史の**葛旗**は其の職を廢するを以て，**冏**に白して**榮**を徙して中書侍郎と為す。潁川の處士の**庾衮**は**冏**が期年まで朝せざるを聞き，歎じて曰く、

「晉室は卑し矣，禍亂は將に興こらんとす！」

妻子を帥いて林慮の山中に逃げる。

■［王豹離間の罪で誅殺される］**王豹**は箋を**冏**に致して曰く、

「伏して思うに元康已來（元康元年に楊駿誅殺以来），宰相は位に在り，未だ一人の終りを獲る者有らず，乃ち事勢は然ら使む，皆な不善を為すに非ざる也。今公は禍亂を克平し，國を安んじ家を定め，乃ち復た覆車之軌を尋ぎ，長く存することを冀わんことを欲し，亦た難からず乎！今河間（王）は根を關右に樹え，成都（王）は舊魏（曹魏は鄴都で創業）に盤桓（広大な領地）し，新野（王）は大いに江、漢に封じられ，三王は各々方に剛にして強盛之年を以て，並びて戎馬を典り，要害之地に處る，而して明公は賞し難き之功を以て，主を震う之威を挾み，獨り京都に據り，專ら大權を執り，進みて則ち亢龍悔い有り（易の乾卦上九の爻辭），退きては則ち蒺藜(しつり)に據る（易の困卦の六三の爻辭。蒺藜はその實刺有り、狀は菱の如く小なり、蒺藜に據るとはその凶傷をいう），此を冀い安きを求めるは，(5-201p) 未だ其の福を見ざる也。」

因りて請いて、悉く王侯を遣りて國に之かしめ，**周**（公）、**召**（公）之法（陝を分けて二伯となり王室を夾輔する）に依り，成都王を以て北州の伯と為し，鄴に治せしむ。**冏**は自ら南州の伯と為し，宛に治す。河を分けて界と為し，各々王侯を統べ，以て**天子**を夾輔せしめんとす。**冏**は優令して之に答える。長沙王の**乂**（続、冏×）は**豹**の箋を見，**冏**に謂って曰く、

「小子は骨肉を離間す，何ぞ銅馳下に打ち殺さず！」

冏は乃ち奏す、

「**豹**は內に讒し外に間し，猜嫌を生じて，不忠不義に坐す」

と，之を鞭殺す。**豹**は將に死せんとして，曰く、

「吾が頭を大司馬の門に縣けよ，兵之齊を攻めるを見る也！」（昔伍子胥は呉王夫差に殺され、將に死せんとするとき、吾が目を呉の東門に縣けよ、越の呉に入るを見んと言った、之に倣うなり）

■［李含の策謀で司馬冏は挙兵］**冏**は河間王の**顒**が本より趙王の**倫**に附く（永寧元年にあり）を以て，心は常に之を恨む。梁州刺史の安定の**皇甫商**は，**顒**の長史の**李含**と平らかならず。**含**は征（続は徵）せ被れて翊軍校尉と為り，時に**商**は**冏**の軍事に參し，**夏侯奭**（顒に殺される事、永寧元年にあり）の兄も亦た**冏**の府に在り。**含**の心は自ら安んぜず，又た**冏**の右司馬の**趙驤**と隙有り，遂に單馬にて**顒**に奔り，詐りて、

「密詔を受け，**顒**をして**冏**を誅せ使む」

と稱し，因りて**顒**を說いて曰く、

「成都王は至親にして，大功有り，推讓して籓に還り，甚だ衆心を得る。齊王は親を越え而して政を專らにし，朝廷は目を側てる。今長沙王に檄して齊を討た使めば，齊王は必ず長沙を誅せん，吾は因りて以て

齊の罪と為し而して之を討てば，必ず禽とす可き也。齊を去りて成都を立て，逼るを除きて親しきを建て，以て社稷を安んずれば，大勳也。」

顒は之に従う。是の時，**武帝**の族弟の范陽王の**虓**（宣帝の弟の東武城侯馗の少子）は豫州諸軍事を都督す。**顒**は上表して**冏**の罪狀を陳べ，且つ言う、

「兵十萬を勒し，成都王の**穎**、新野王の**歆**、范陽王の**虓**と共に洛陽に合（続は會）し，長沙王の**乂**に請い**冏**を廢して第に還し，**穎**を以て**冏**に代わりて政を輔けしめんと欲す。」

顒は遂に舉兵し，**李含**を以て都督と為し，**張方**等を帥いて洛陽に趨かしめ，復た遣使して**穎**を邀えしめ，**穎**は將に之に應じんとし，**盧志**は諫めるも，聽かず。

■<u>［冏は百官を集め対応協議］</u>十二月，丁卯（3+60-42+1=22 日），**顒**の表は至る。**冏**は大いに懼れ，百官を會して之を議し，曰く、

「孤は首として義兵を唱え，臣子之節は，信（まこと）に神明に著（あらわ）る。今二王（成都王穎と河間王の顒）は讒を信じて難を作る，將に之を若何せんや？」

尚書令の**王戎**は曰く、

「公の勳業は誠に大きく，然るに賞は勞に及ばず，故に人は貳心を懷く。今二王の兵は盛んにして，當たる可からざる也。若し王を以て第に就き，權を委て讓を崇べば，庶幾（こいねが）わくは安きを求める可からん。」

冏の從事中郎の**葛旟**は怒りて曰く、

「三台（尚書）の納言は，王事を恤（うれ）えず。賞報（賞を以て功に報いる）の稽緩（稽留遅緩）するは，責は（齊王の）府に在らず。讒言し逆亂するは，當に共（続、其×）に誅討すべし，奈何して虛しく偽書を承け，遽に公をして第に就か令む乎！漢、魏以來，王侯の第に就くは，寧んぞ妻子を保つを得る者有る邪？議者は斬る可し！」

百官は震悚して色を失う，**戎**は偽りて藥發し（仮病）廁に墮ち，免かるるを得る。

■<u>［李含は洛陽に侵入し、司馬冏を誅殺］</u>**李含**は陰盤（陝西省關中道邠県、三門峽市義馬市）に屯し，**(5-202p)**

張方は兵二萬を帥いて新安（河南省河洛道澠池県・新安県、現・三門峽市義馬市）に軍し，長沙王の**乂**に檄し**冏**を討た使む。**冏**は**董艾**を遣わして**乂**を襲わしめ，**乂**は左右百餘人を將いて馳せて宮に入り，諸門を閉じ，**天子**を奉じて大司馬の府を攻め，**董艾**は兵を宮西に陳じ，火を縱ちて千秋神武門（宮の西門）を燒く。**冏**は人をして騶虞幡を執りて唱え使めて云わく、

「長沙王は矯詔す。」

乂は又た稱す、

「大司馬は謀反す」。

是の夕，城內は大いに戰い，飛矢は雨のごとく集のり，火光は天に屬く。**帝**は上東門（洛陽の上東門でなく宮城の上東門）に幸し，矢は御前に集り，群臣の死する者は相い枕す。連戰すること三日，**冏**の衆は大敗し，大司馬の長史の**趙淵**は**何勖**（司馬冏と同時に挙兵、中領軍）を殺し，因りて**冏**を執りて以て降る。**冏**は殿前に至り，**帝**は惻然として，之を活かさんと欲す。**乂**は左右を叱して趣して牽き出し，閶闔門外に斬り，首を六軍に徇え，同黨の皆な三族を夷げ，死者は二千餘人なり。**冏**の子の**超**、**冰**、**英**を金墉城に囚え，**冏**の弟の北海王の**寔**を廢す。天下に赦し，改元（太安）す。**李含**等は**冏**の死するを聞き，兵を引いて長安に還る。

■<u>［朝廷実権は鄴の司馬穎にあり］</u>長沙王の**乂**は朝廷に在ると雖も，事は鉅細と無く，皆な鄴に就き大將軍の**穎**に諮る。**穎**は**孫惠**を以て參軍と為し，**陸雲**を右司馬と為す。

■是の歲，陳留王（魏最後の皇帝で禅譲）は薨じ，謚して魏の**元皇帝**と曰う。

▲［慕容廆は宇文を破り充実］鮮卑の**宇文**單于の**莫圭**は部衆強盛なり，其の弟の**屈雲**を遣わして**慕容廆**を攻め，**廆**は其の別帥の**素怒延**を撃ち，之を破る。**素怒延**は之を恥じ，復た兵十萬を發し，**廆**を棘城に圍む。**廆**の衆は皆な懼れ，**廆**は曰く、

「**素怒延**の兵は多しと雖も而るに法制無く，已に吾が算中に在り矣，諸君は但だ力戰を為せば，憂うる所無き也！」

遂に出撃し，之を大破し，追いて百里を奔り，俘斬は萬計なり。遼東の**孟暉**は，先に**宇文**部に沒し，其の衆數千家を帥いて**廆**に降り，**廆**は以て建威將軍と為す。**廆**は其の臣の**慕輿句**が勤恪廉靖なるを以て，府庫を掌ら使む。**句**は心計默識にして，簿書を案ぜず，始終漏れる無し。**慕輿河**が明敏精審なるを以て，獄訟を典ら使め，覆訊すること清允なり。

令和４年１月 30 日　　書下し開始　　8896 文字
令和４年２月６日　　書下し終了　　18729 文字